

## 日本セッション報告②

# 未来へのメッセージ:日本のデジタルアーカイブへの挑戦

アジア歴史資料センター 山本 啓司

本日は日本の国立公文書館が進めるデジタルアーカイブ現状について報告します。まず最初に、既に公開しているアジア歴史資料センターのデジタルアーカイブシステムについて紹介し、次に国立公文書館が現在準備中の最先端のデジタルプロジェクトについて報告します。

### 1 アジア歴史資料センターの開設

日本は近隣諸国、特にアジアの国々や地域と歴史認識の問題を抱えることはご存じのことと思います。この問題に対処し、かつ解決するために、政府は、第二次世界大戦終戦50周年の前年にあたる1994年に「平和友好交流計画」を開始しました。本計画の中で重要なプロジェクトとしてアジア歴史資料センターの設立が位置づけられました。慎重な議論と検討を重ねた結果、アジア歴史資料センターは2001年11月に国立公文書館に附属する組織として設置されました。事前調査の結果から国立公文書館、外務省外交史料館、防衛庁防衛研究所図書館等の政府の主要な文書館には戦前の公文書が大量に保存されていることが分かっていました。

これらの文書館が所蔵する記録の多くが既にマイクロフィルム化されていることを知り、センターはインターネットを利用して戦前の公文書をデジタル化して「いつでも」「何処でも」「だれもが」利用できるようなデータベースの開発に着手しました。現在、世界中の人々に約740万画像のデジタル情報を自由に検索し、データをダウンロードし、画像を印刷できるシステムを提供しています。1868年の明治維新から第二次世界大戦終了の1945年までの国内政治、外交、軍事に関する記録にアクセスすることが可能です。今後8年間で最終的に

は約3000万画像を提供する予定です。

(1) 技術の要件の設定

このような使命を受けて、センターのデータベースを構築するにあたって次のような技術要件を設定しました

- ・多言語、少なくとも英語での検索を可能とする誰もが簡単に利用できる検索システムの採用。
- ・画像が劣化しないでインターネットで大量の画像データを送信できる画像圧縮技術の採用。
- ・検索を簡便にすると同時に、正確性を担保できる目録システムと同義語や関連語、さらに英語に対応する電子辞書の採用。

(2) 最先端技術の採用

以上の技術要件を具体化するために画像圧縮フォーマットDjVu（デジャビュ）のような最新の技術を採用しました。DjVu画像フォーマットは次世代の最新画像圧縮フォーマットとして注目されていました。目録システムに関しては、国際アーカイブ目録記述標準（ISAD（G））とインターネットでの検索を念頭に開発されたメタデータセットであるDublin Coreの要素を取り入れた目録項目を設定しました。さらに、日本の近代史に特化した用語を整理した同義語や関連語、さらに基本語の英訳からなる独自の電子辞書も編纂しました。

センターデータベースの特色は、その多様な検索機能であり大量の画像データ送信能力にあります。データベースの基本は利用者の利便性にあります。画面を1200パーセントまでズームしても画像の劣化がありません。さらにサムネイルを利用することで画像のブラウジングが簡単に出来ます。センターの画像提供システムは、文書資料の基本である白黒2値の画像を提供することに適したシステムです。このシステムが手書きの文書も含め各国の公文書館に所蔵された多種多様な記録にアクセスするための有効なシステムと考えます。

## 2 国立公文書館デジタル・アーカイブ・プロジェクト

次に国立公文書館が政府が進める「2002年e-Japan計画」の一環として、本年の公開に向け準備中の最先端のデジタルプロジェクトの紹介をします。e-Japan計画は行政、教育、医療サービス、文化などあらゆる分野を包括し、情報技術の開発と応用を目的とした総合的な政策として2002年6月に開始されました。その中でも国立公文書館が推進するプロジェクトは重要な位置を占めています。本プロジェクトで公文書館は2005年までに同館が所蔵する文書記録だけでなく文化的美術的遺産を高精細のデジタル画像として一般に公開することを目指しています。公文書館が本年実施するのは、インターネットを通じてJPEG2000画像フォーマットに変換された高精細画像データを提供するユニークな試みです。現在まだ実験中ですが現在13（12月現在では55画像）の鮮明なカラー画像をインターネットで提供しています。画像の多くは古地図で17世紀のものも含んでいます。最大のもは5平米もあります。これらは一般的な方法では公開することが難しいのはお判りでしょう。

## 3 結び

最後に、世界中の人々が私どもが進めるデジタルプロジェクトの存在を知り、インターネットで私どものデータベースを訪れてくれることを期待致しています。私どものデジタルアーカイブへの試みが過去に対する歴史認識の溝を埋め、近隣諸国の人々との相互理解を深めることに寄与できることを期待します。アーカイブ社会に置いて「デジタルであること」は自然の成り行きといえます。デジタル社会は止めることが出来ません。私たちが属するアーカイブ社会もデジタル社会がもたらす分散化、地球化、協調化そして権力を付与する力の影響を見ることとなります。なお、残念ながら申し上げますと本日のデモンストレーションはオンラインではありません。

